

助言者	畑中 ひとみ	(倉敷情報学習センター主任)
司会者	佐藤 美子	(倉敷市立万寿東小学校司書)
記録者	岡田 淳子	(倉敷市立琴浦西小学校司書)
	奥野 文子	(倉敷市立下津井西小学校司書)

I 事例発表

コンピュータを活用することによって

学校図書館の活性化をはかるには

倉敷市立玉島西中学校司書 藤岡 弓子
倉敷市立箭田小学校司書 西山 洋子

1 はじめに

私たちコンピュータ班は、学校図書館でコンピュータを活用することにより司書としての資質向上を目指す目的で研修をはじめた。

そして研修テーマを「コンピュータを活用することによって学校図書館の活性化をはかるには」とし、〈学校図書館でコンピュータを活用するにはどうすればよいか〉という観点で研究をすすめることにした。

2 実態について ～市内アンケート～

現在、学校図書館に設置されているコンピュータについて調べた。倉敷市内の小・中・養護学校には、「かわせみネット端末（市民開放用）」「新図書館ネットワークシステム端末（図書館事務処理用）」「教育ネット端末（児童・生徒用）」の3台を中心に機器が整備されている。このコンピュータ端末は図書館システムとイントラネット目的で設置されている。

まずこの導入されたコンピュータについて実態を把握しようと、倉敷市内全校にアンケート調査をした。（平成18年3月と10月に実施）

その結果、積極的に取り組んでいる学校がある一方で利用規定がなかったり、利用にあまり取り組んでいないなど様々な問題があることに気付いた。

3 研修の経過

コンピュータを積極的に取り入れることにより学校図書館の活性化をはかる為に、以下の方法を用いて研修を

すすめることにした。

〈ホームページ班・プレゼンテーション班について〉

まず、インターネット上に情報発信し学校図書館のホームページを作成して紹介するグループをホームページ班とした。

もうひとつは、学校図書館活動の中でコンピュータを用いて利用案内や図書館の紹介などをするグループをプレゼンテーション班とした。

このふたつの班に分かれて、それぞれの特徴を活かして研修をすすめることにした。

また、コンピュータの意義やネットモラルについても研修しながら実践をすすめた。

4 実践 ホームページ班より

～ホームページソフトを使った

学校図書館活性化の試み 情報発信の試み～

①アンケート結果から

市内アンケート調査ではホームページについての設問も載せた。ホームページの設置の問いには、学校ホームページとして設置しているところは多いが、図書館ページの開設校が少ないという実態がわかった。開設していない理由として、様々な内容があげられたが、実際の作成方法が分からないという回答が少なからず寄せられた。

②実践例

ホームページ班では、どのような内容を開設したいかを考え、学校ごとにホームページ計画案を作成した。その計画案を元にして自校の図書館ページ作成をおこなった。

作成については初めて作る班員もいた為、倉敷情報学習センターで合同の研修をして作成技術を高めた。また、以前から図書館ページが開設していた学校では内容を深め、追加項目やページを増やすなど内容の充実に努めた。取り上げた内容としては「図書館案内」「利用案内」「図書案内」「読書活動」といったものが多くみられた。

各学校のホームページ実践紹介

A 初めて図書館ページを開設した学校

- ・倉敷市立本荘小学校

小学校らしく全体的にかわいく楽しい感じを持ってもらえる雰囲気になるよう心がけた。保護者の方にも普段目にする事のない学校図書館の様子を知ってもらいたいと思い、写真付きで館内の様子を紹介している。

また、写真は児童の顔が分からないものを選び、写真上にアイコンがくるとモザイクがかかるよう工夫している。

- ・倉敷市立玉島西中学校

部活や生徒会活動で、なかなか図書館に足を運ぶ機会のない生徒にも図書館の様子が分かるように常に更新を心がけ、最新の情報が分かるようにしている。「新刊案内」は新刊を出すたびに更新し、「お知らせ」では長期休暇中の図書館開館日や生徒に知ってもらいたい内容を載せている。「図書館の様子」では、今回は出版社の許諾を取り話題の本を載せた。

B 図書館ページを増設した学校

- ・倉敷市立連島南小学校

図書館のページは初めてなので、利用案内を中心に考えた。また出版社から平成20年度課題図書の表紙の許諾を取り紹介した。

最近ではホームページ作成に慣れてきたので、カラーやアニメーションなどで視覚にせまりながら楽しいページを作りたいと考えている。

- ・倉敷市立下津井西小学校

全体的に文字を少なくし、すっきりと見やすいページになるよう心がけた。「オススメの1さつ」では、出版社から許諾を取り載せている。今は司書中心でホームページを作成しているが、今後は児童達ともいっしょにホームページを作成できればと思っている。

C 図書館ページ全体の改装をした学校

- ・倉敷市立多津美中学校

「館内紹介」は本のアイコンをクリックすると館内の写真が見れる。「図書委員会活動」では、委員会の主な活動を写真を交えつつ分かりやすく紹介している。

「お役立ちブックリスト」は、授業や行事などで使用する資料をテーマ別に分かりやすくあげている。「読書案内」の中には、生徒にブックトークで紹介した本を載せている。

D 特徴的なページがある学校

- ・倉敷市立倉敷養護学校

「図書資料の紹介」では、しかけ絵本・さわって遊ぶ絵本・音の出る本・大型絵本などを紹介している。「おはなし会の様子」では、[くらようふれあいデー]でのおはなし会の様子を載せている。

養護学校にある図書資料のことだけしか考えていなかったもので、更新のとき新たに「図書室表示札」や「館内風景」を加えた。

今回実践したホームページの作成過程では、特に以下の点に留意しながら作成した。

- ①学校のホームページと学校図書館ページの関係について理解し、教育機関からの情報発信であることをわすれないこと。(倉敷市の場合、倉敷市教育ネット利用のガイドラインよりその目的と内容が明確化されている。)
- ②取り上げる内容は著作権や人権保護の立場をふまえること。

5 実践をおえて～感想・反省 課題・展望～

作成したホームページについては、学校図書館協議会のホームページ評価基準をもとに評価表を作り、自校評価をおこなった。

今回ホームページを作成すること自体全く初めて取り組んだ者が多かったので、ソフトの機器操作に慣れなかったり、内容作りに苦労したりして作成を始めた。

こういった実践を通して司書自身が関わってホームページを作成することにより学校図書館の最新の情報をインターネット上に発信することができたのは成果のひとつと思っている。

ホームページ作成を通して、学校図書館情報をより早く届けることができる実践をしたことはなにより得難い経験だった。取り上げる内容はガイドラインにのっとり、著作権や人権に配慮しながら継続し更新する努力をしていこうと思う。

最新の内容を届ける一方でその内容は常に見られているという視点も忘れないようにしたいと考えている。

今後は、ホームページの特質を活かしながら最新の情報を届けることで学校図書館の活性化をはかっていきたいと思う。

6 実践 プレゼンテーション班より

～プレゼンテーションを使った学校図書館活性化の試み～

(1) 研修の流れ

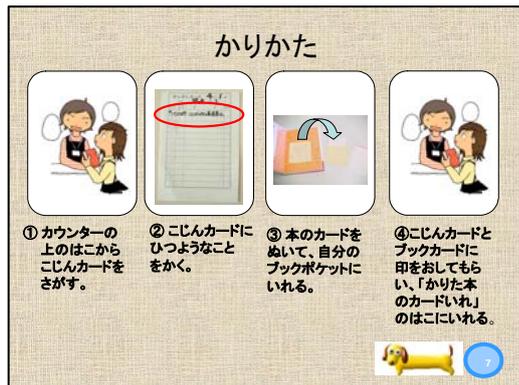
各校、図書館年間計画の中からプレゼンテーションを行うのが有効だと思われるものを選び出しプランを立案した。

(2) 実践例

・オリエンテーション

全校児童を対象に実践。

映像での説明なので分かりやすかったようだ。



・校内人権週間

絵本「あの子」（ひぐちともこ作・絵 開放出版社）を上映。関西弁の面白さのほうに気をとられ、ポイントが理解できていないようだったので、2回上映した。

・作家紹介・本ってなに

読書週間に本と作家の紹介を行った。楽しげに聞いていた。

・読書月間

読書月間のイベントのPR

実施時期より早めに流したことで期待感が生まれ盛り上がりにつながった。

校内放送にも活用した。

・図書委員おすすめ

低迷気味は委員会活動の活性化をめざし、生徒が本を紹介した。

生徒が意欲的になったと感じた。

・分類

図書館内の本の配架を知らせ、本を探す作業をスムーズにできることを目的の作成。

・図鑑

小学3～6年を対象に、調べ学習前に目次・索引の引き方をクイズ形式で実践した。

・プレゼンテーションの実践したビデオ上映

『大高小学校～本をみつける名探偵になろう～』

3) 感想・反省

当初、さまざまなテーマのプレゼンテーションは、児童生徒の興味をひくことができたが、作成を重ねるうちに、何をどうみせるかの工夫が大切だと考えるようになってきた。

図書委員会で取り組んだプレゼンテーションの作成を通して、生徒が自信を付けてきたことは、狙い通りの効果だった。

(4) 課題・展望

オリエンテーションのように毎年行うものは新鮮味を感じられるようにするにはどうするか、実施時間の確保、映像の著作権問題など課題は多い。

プレゼンテーションソフトはさまざまな場面でかつようできると感じた。作成・実践したもの以外にも図書館の活性化につながるものがあるか探って生きたい。



7 まとめ

学校図書館でコンピュータを活用し、活性化を図るといふ目的はある程度達成できたと思うが、活性化を客観的な目で捉えることまではいたらなかった。

司書が多くの手段を持つことが、学校図書館の活性化につながる要素の一つになるのであれば、今後もコンピュータを使った取り組みをおこなっていききたい。

II 質疑応答

高校の司書から「何について伝えたいのか」がはっきりとしていて、更新しやすいHP作りの紹介があった。

III 助言

日頃の学校図書館でのコンピュータを使った活動報告を見ることができた。これからもコンピュータを「図書館活動を活性化するための道具」として上手に活用してもらいたい。